

インバウンドコラム

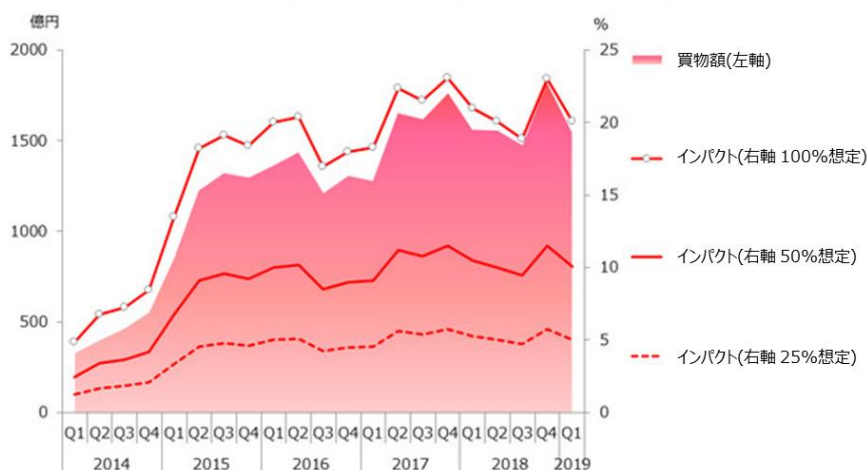
訪日外国人の買い物傾向

ドラッグストアのインバウンド需要

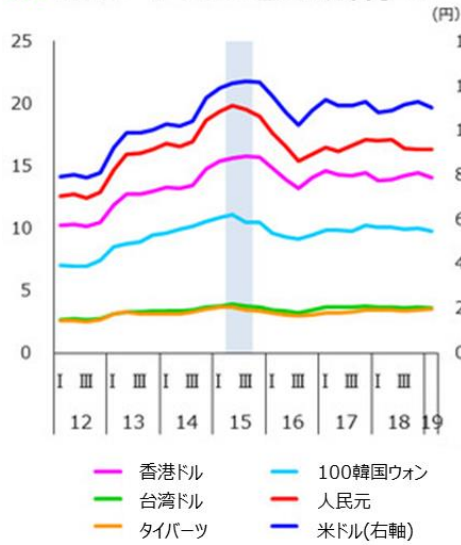
多くの家電品を抱える中国人観光客の姿を目にする機会は、めっきり少なくなりました。代わりに観光地にはドラッグストアが立ち並び、店内には中国語や韓国語のポップや、店内放送が流れています。日刊工業新聞で訪日外国人のドラッグストアへの貢献度が解説されています。

訪日外国人による医薬品・化粧品等(トイレタリー、健康グッズ、香水含む)購入額を 2014 年から 4 半期ごとに見みると、2016 年後半に一時低迷しますが、2017 年には再び上昇しています。折れ線グラフは、同商品群をドラッグストアで購入した割合を仮に 100%、50%、25%として試算したものです。訪日中国人のうち実に 90%が、訪日香港人のうち約 75%がドラッグストアで買物をすると言われています。(参照※1、グラフ a)2015 年は円安により医薬品・化粧品等も家電等もともに買物額が急上昇します。しかし、2016 年に為替レートが訪日外国人の自国為替に不利になると、家電買物額は急激に減少しますが、医薬品・化粧品買物額は、増加しています。(参照※1、グラフ b、グラフ c)家電は、為替が不利になると購入者数も、購入者単価も減りますが、医薬品・化粧品は、購入者単価はやや減るものの、購入者数は増加しています。為替が不利な場合、家電は購入自体を取りやめる人が多く、医薬品・化粧品では、購入予算は減らすものの、購入を取りやめるまでには至らないようです。より商品単価が小さい医薬品・化粧品等では為替の影響は小さく、訪日外国人がドラッグストアの安定した顧客となりつつあるようです。(参照※1、グラフ d、グラフ e)しかし、為替のほか、中国政府の関税引き上げ政策の影響も大きいはずで、今後の推移に注目です。

グラフa 訪日外国人の医薬品・化粧品等購入額とそのインパクト



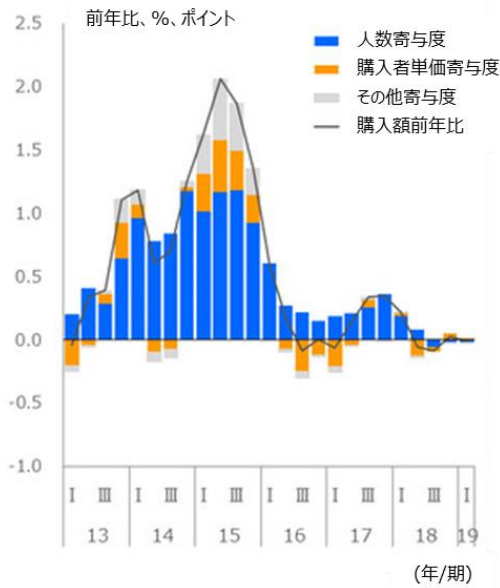
グラフb 為替レート 各国1通貨あたり円 (注)



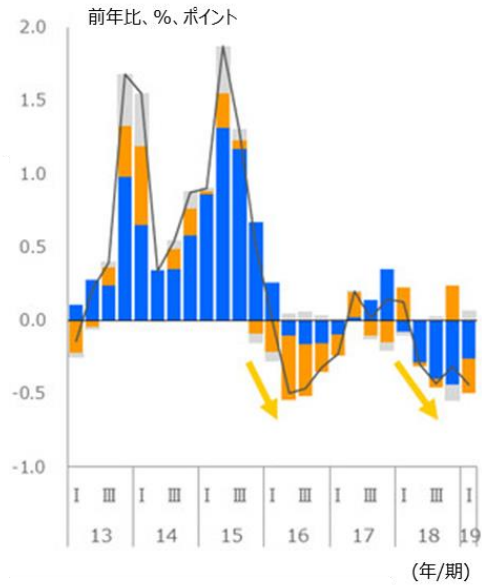
グラフc 訪日外国人の買物額



グラフd 医薬品・化粧品等



グラフe 家電等



グラフa～eすべて 出典元:日刊工業新聞

※1 訪日外国人消費 | 日刊工業新聞

<https://newswitch.jp/p/18763>